

2007-04-27 EDINET タクソノミ 対応

報告書インスタンス作成ガイドライン

パイロット・プログラム用

2007 年（平成 19 年）4 月 27 日

金融庁 総務企画局 企業開示課

目 次

1.	はじめに	3
1.1	本書の目的	3
1.2	前提となる文書	3
1.3	本書の適用範囲	3
2.	報告書インスタンスの概要	4
2.1	報告書インスタンスとは	4
2.2	報告書インスタンスの作成単位	5
2.3	雛形インスタンス	5
2.4	サンプルインスタンス	5
3.	報告書インスタンスのファイル仕様	6
3.1	報告書インスタンスのファイル構成	6
3.2	報告書インスタンスの文字コード	7
3.3	報告書インスタンスのファイル名	7
3.4	雛形インスタンスのファイル仕様	8
3.4.1	雛形インスタンスの設定内容	8
3.4.2	雛形インスタンスのファイル名	9
4.	名前空間宣言	10
4.1	報告書インスタンスの名前空間宣言	10
5.	企業別タクソノミの参照	12
5.1	企業別タクソノミの参照方法	12
6.	コンテキストの定義	13
6.1	コンテキストの作成	13
6.2	命名規約	15
6.3	エンティティ要素の設定	16
6.4	コンテキストの期間時点 (period) 要素の設定方法	16
6.4.1	期首日時点のコンテキストの作成	16
6.4.2	決算期を変更した場合の設定	17
6.5	シナリオ要素の設定	18
7.	ユニットの定義	19
7.1	ユニットの設定	19
8.	インスタンス値の記述	20
8.1	金額の入力	20
8.1.1	数値の精度	20

8. 1. 2	キャッシュ・フロー計算書の勘定科目の設定方法	20
8. 1. 3	株主資本等変動計算書の金額の設定	21
8. 1. 4	「該当なし」の設定	21
8. 2	構成比・百分比の入力	21
8. 2. 1	値の入力方法	21
8. 3	参照するコンテキストの設定	22
8. 4	参照するユニットの設定	22
8. 5	その他の留意事項	23
8. 5. 1	同一要素へのコンテキストの設定	23
9.	注記番号の記載	24
10.	その他	27
10. 1	訂正時の取り扱いについて	27
10. 2	株主資本等変動計算書	27
10. 3	検証に関する注意事項	27
11.	各種命名規約	29
11. 1	コンテキストID	29
11. 2	コンテキストの設定例	30
11. 3	ユニットID	37

1. はじめに

1.1 本書の目的

報告書インスタンス作成ガイドライン(以下「本書」という。)は、証券取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム(以下「EDINET」という。)に開示書類をXBRL(eXtensible Business Reporting Language)形式により提出する際に必要となる報告書インスタンスを作成するためのガイドライン(指針)となります。

報告書インスタンスは、原則として、本書に従って作成して下さい。

1.2 前提となる文書

報告書インスタンスは、EDINETにおいて正しく受理・審査・縦覧されるためにXBRLの仕様や指針に準拠している必要があります。また、報告書インスタンスが前提とするタクソノミは企業別タクソノミであり、企業別タクソノミは当庁が定めるガイドラインに従う必要があります。XBRLの仕様や指針、当庁が定めるガイドラインは表 1-1の通りとなります。但し、本書と表 1-1の文書において不整合がある場合、本書を優先して下さい。

No	文書名
1	XBRL Specification 2.1 Recommendation-errata 2005-11-07
2	FRIS(Financial Reporting Instance Standards) Public Working Draft 2004-11-14
3	企業別タクソノミ作成ガイドライン

表 1-1 本書の前提となる文書

1.3 本書の適用範囲

本書は企業別タクソノミを利用して、報告書インスタンスを作成する際に適用されます。

2. 報告書インスタンスの概要

2.1 報告書インスタンスとは

EDINET に有価証券報告書等を提出する企業等(以下「提出会社」という。)は、財務諸表をXBRL形式で提出する必要があります。

EDINETで扱うXBRLのタクソノミには、当庁が提供するEDINETタクソノミと、EDINETタクソノミをベースタクソノミとして提出会社が作成する企業別タクソノミがあります。提出会社は企業別タクソノミを作成し、企業別タクソノミから報告書インスタンスを作成した上で、EDINETに企業別タクソノミと報告書インスタンスを提出する必要があります。EDINETタクソノミ及び企業別タクソノミについての詳細は、「企業別タクソノミ作成ガイドライン」を参照して下さい。EDINETで利用するタクソノミとインスタンスの全体像を図 2-1に示します。

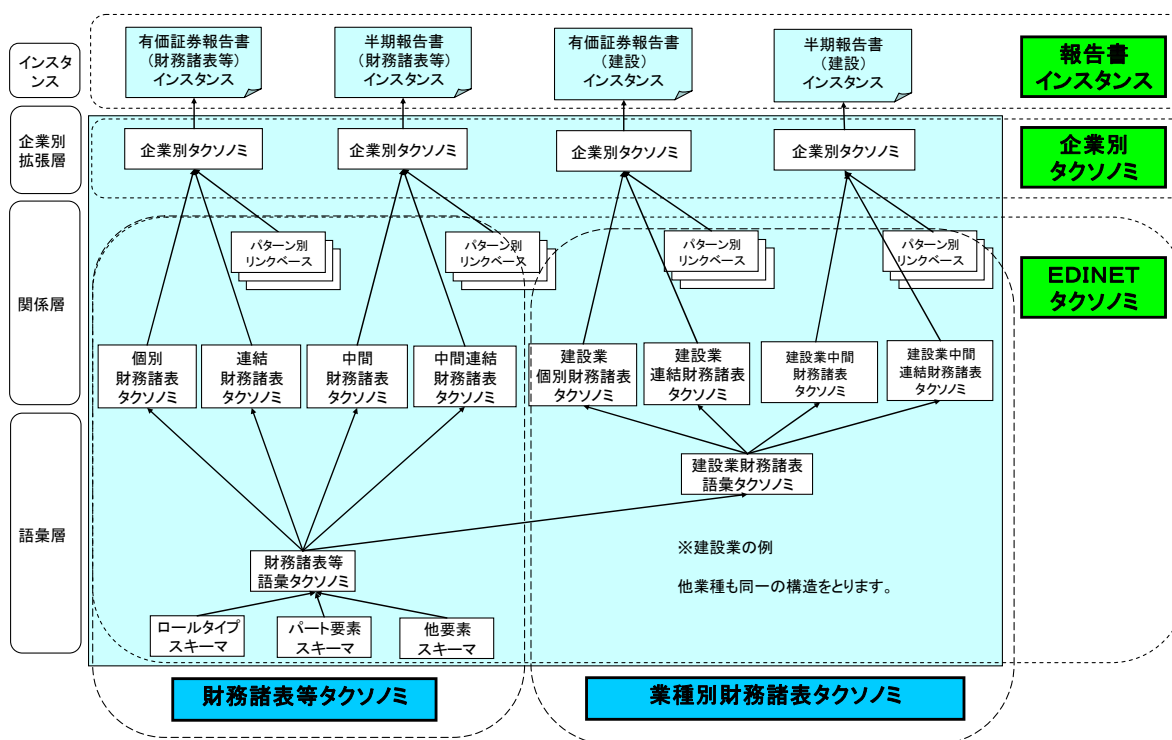


図 2-1 EDINET で利用するタクソノミとインスタンスの全体像

2. 2 報告書インスタンスの作成単位

報告書インスタンスの作成単位は、有価証券報告書や半期報告書等の報告書の単位で 1 つです。

企業別タクソミの作成単位も報告書毎に 1 つであり、一つの報告書インスタンスは 1 つの企業別タクソミを参照します。

(報告書インスタンスが schemaRef 要素を用いて企業別タクソミを読み込むことを、「参照する」といいます。)

2. 3 雛形インスタンス

報告書インスタンスを効率よく作成するために、雛形インスタンスが提供されています。雛形インスタンスでは、報告書インスタンスを作成する上で必要なコンテキストやユニットなどが設定されています。

2. 4 サンプルインスタンス

本書に従って作成した報告書インスタンスの例が、サンプルインスタンスです。報告書インスタンスを作成する際の参考として下さい。

3. 報告書インスタンスのファイル仕様

3.1 報告書インスタンスのファイル構成

報告書インスタンスは、図 3-1の通り大きく 6 つから成り立っています。報告書インスタンスにおけるこれらの記述順序も下記の通りです。

- 名前空間宣言
利用する名前空間のプレフィックスを宣言します。
- 企業別タクソノミの参照
企業別タクソノミへの参照を設定します。
- コンテキストの定義
報告する会計年度や報告主体について定義します。
- ユニットの定義
報告する通貨などの単位を定義します。
- インスタンス値の記述
金額情報等、実際の会計数値等の情報を設定します。
- フットノートリンク
注記がある場合、注記番号を設定します。

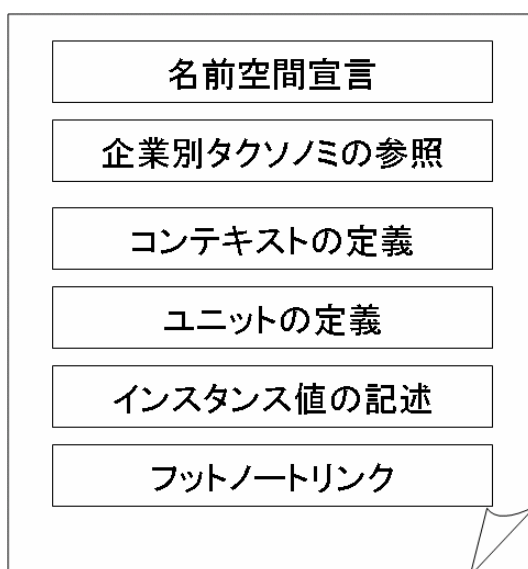


図 3-1 報告書インスタンスの構造

注意：報告書インスタンスでは、linkbaseRef、roleRef、arcroleRef を使用できません。

3. 2 報告書インスタンスの文字コード

報告書インスタンスで使用する文字コード(エンコーディング形式)は、UTF-8 とします。

3. 3 報告書インスタンスのファイル名

報告書インスタンスのファイル命名規約は次の通りです。設定値を表 3-1に、設定例を図 3-2に示します。

ファイル名：

jpfr-{報告書}-{EDINET コード}-{報告対象期間期末日}-{提出回数}-{提出日}.xbrl

No	項目	設定値	説明
1	{報告書}	asr	有価証券報告書 (annual securities report)
2		ssr	半期報告書 (semi-annual securities report)
3		srs	有価証券届出書 (securities registration statement)
4	{EDINET コード}	英数字	6桁の EDINET コード
5	{報告対象期間期末日}	YYYY-MM-DD	報告書の対象期間の期末日
6	{提出回数}	数値	最初の報告を1とし、同一年度、同一の報告書を再提出するごとに1ずつ増やします。 ※ 同一提出日における提出回数ではありません。 ※ 2以上のものは訂正報告されたものとみなされます。 ※ 企業別タクソノミと提出回数をあわせる必要があります。詳細は「10. 1訂正時の取り扱いについて」を参照して下さい。
7	{提出日}	YYYY-MM-DD	報告書の提出日

表 3-1 報告書インスタンスのファイル名の命名規約で用いられる値

<p><u>条件</u></p> <p>対象書類：有価証券報告書</p> <p>EDINET コード：999999</p> <p>報告対象期間期末日：2006年3月31日</p> <p>提出回数：初回提出</p> <p>提出日：2006年6月28日</p> <p><u>ファイル名</u></p> <p>jpfr-asr-999999-2006-03-31-1-2006-06-28.xbrl</p>
--

図 3-2 報告書インスタンスのファイル名の例

3. 4 雛形インスタンスのファイル仕様

3. 4. 1 雛形インスタンスの設定内容

雛形インスタンスには表 3-2の設定値が予め設定されています。説明の通り修正して利用できます。なお、{報告書}は表 3-1の通りです。

No	項目	設定値	説明
1	名前空間宣言	表 4-1	提出会社の企業別タクソノミにあわせて修正が必要です。
2	企業別タクソノミの参照	jpfr-{報告書}-000000-YYYY-MM-DD-1-YYYY-MM-DD.xsd	提出会社の企業別タクソノミにあわせて修正が必要です。
3	コンテキストの定義	3 月期決算で使用する連結用及び個別用	報告期間にあわせて修正が必要です。
4	ユニットの定義	表 11-2、表 11-3	金額と構成比・百分比。特別な理由がない限り修正不要です。
5	インスタンス値の記述	設定無し	報告内容にあわせて設定します。
6	フットノートリンク	設定無し	報告内容にあわせて設定します。

表 3-2 雛形インスタンスの定義内容

3.4.2 雛形インスタンスのファイル名

雛形インスタンスのファイル名は次の規約に従っています。なお、{報告書}は表 3-1の通りです。

ファイル名 : jpfr-{報告書}-template.xbrl

4. 名前空間宣言

4.1 報告書インスタンスの名前空間宣言

報告書インスタンスの名前空間宣言において宣言しなければならない名前空間URIは表 4-1の通りです。表 4-1に記載された以外の名前空間URIを宣言してはなりません。また、表 4-1に記載された名前空間URIであっても、報告書インスタンス内で未使用の名前空間URIを設定してはなりません。

使用する名前空間プレフィックスの名称は、表 4-1に記載されているものの利用が推奨されます。

No	(推奨) 名前空間プレフィックス	名前空間 URI	備考
1	xbrli	http://www.xbrl.org/2003/instance	XBRL 仕様で定められているスキーマファイルの名前空間宣言
2	xlink	http://www.w3.org/1999/xlink	XLink 仕様で定められているスキーマファイルの名前空間宣言
3	link	http://www.xbrl.org/2003/linkbase	XBRL 仕様で定められているスキーマファイルの名前空間宣言
4	iso4217	http://www.xbrl.org/2003/iso4217	インスタンスの unit で利用する通貨コードについての名前空間宣言
5	企業別タクソノミと同一の名前空間プレフィックス	参照先となる企業別タクソノミの名前空間 URI	詳細は「企業別タクソノミ作成ガイドライン」をご確認下さい。
6	ベースタクソノミがインポートしている語彙タクソノミと同一の名前空間プレフィックス	語彙タクソノミの名前空間 URI	ベースタクソノミがインポートしている語彙タクソノミについては「企業別タクソノミ作成ガイドライン」の添付「タクソノミ一覧と根拠となる法令等について」をご覧下さい。 なお、すべての業種別財務諸表語彙タクソノミは財務諸表等語彙タクソノミをインポートしているため、財務諸表等語彙タクソノミの名前空間プレフィックスの宣言も必要です。

No	(推奨)名前空間 プレフィックス	名前空間 URI	備考
7	企業別タクソノミが インポートしている 語彙タクソノミと同 一の名前空間プレフ ィックス	語彙タクソノミの名前 空間 URI	企業別タクソノミで業種別財務諸表 語彙タクソノミをインポートしてい る場合、業種別財務諸表語彙タクソ ノミの名前空間 URI と名前空間プレ フィックスの宣言が必要になります。 詳細は「企業別タクソノミ作成ガイ ドライン」をご確認下さい。
8	jpfr-oe	http://www.edinet.go. jp/jp/fr/gaap/o/oe/{ 公開日}	勘定科目及び報告項目以外の要素の 定義。 「6.5シナリオ要素の設定」をご確 認下さい。 {公開日}は本書の表紙にある日付を 指します。

表 4-1 報告書インスタンスの名前空間宣言

5. 企業別タクソノミの参照

5.1 企業別タクソノミの参照方法

報告書インスタンスは、報告対象となる企業別タクソノミを schemaRef 要素の href 属性を用いて参照します。その際に、指定する企業別タクソノミのスキーマファイルは相対パスで指定します。提出先の EDINET では同一フォルダ上に企業別タクソノミが配置されることを前提としてファイル名のみでの指定となることに注意して下さい。

報告書インスタンスは、報告対象となる企業別タクソノミのみを参照します。(EDINET タクソノミを直接参照することはできません。)

インスタンスと企業別タクソノミの参照関係を図 5-1に示します。

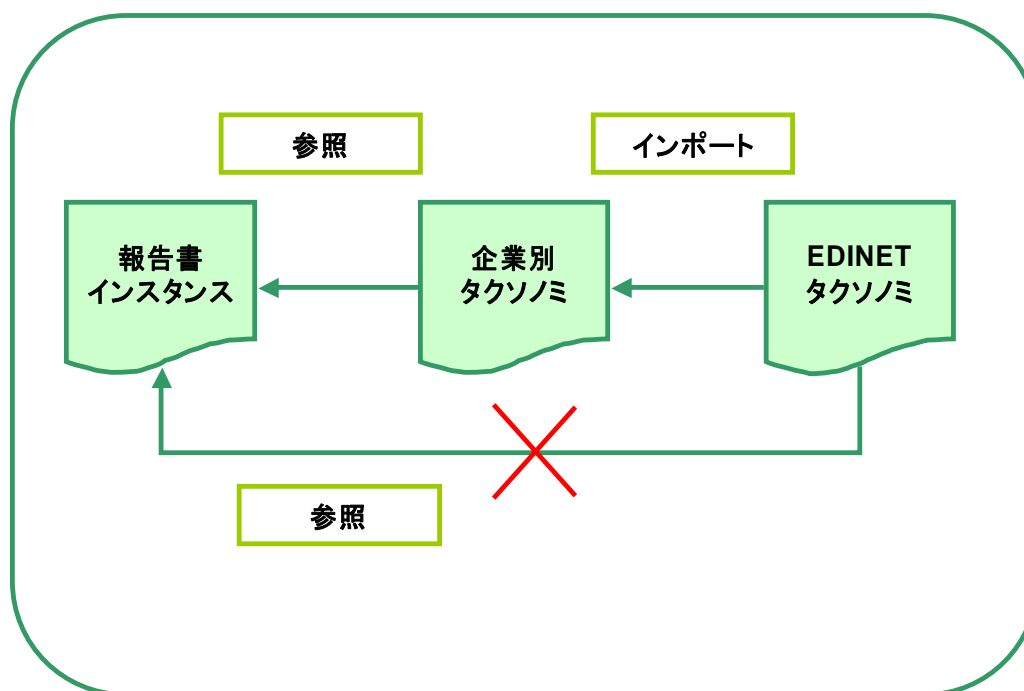


図 5-1 インスタンスと企業別タクソノミの参照関係

6. コンテキストの定義

提出会社は会計情報の報告主体や会計期間などの情報を表現するためにコンテキストを設定し、インスタンス値は適切なコンテキストを参照しなければなりません。

コンテキストに設定する内容は、id 属性、エンティティ (entity) 要素、期間時点 (period) 要素、シナリオ (scenario) 要素です。

6.1 コンテキストの作成

通常の提出会社が、有価証券報告書で作成するコンテキストを表 6-1に、半期報告書で作成するコンテキストを表 6-2に、有価証券届出書で作成するコンテキストを表 6-3に示します。

表 6-1～表 6-3は、No毎に作成対象のコンテキストの種類を記載し、当該コンテキストを使用する財務諸表の欄に○を記載しています。使用しない、又は該当しない場合はハイフン(-)、一部の勘定科目のみ使用する場合は(一部)と記載しています。Noの欄がカッコで記載されている場合、当該コンテキストは作成しません。その場合、備考欄に記載のコンテキストを使用します。

No	会計年度	期間・時点	コンテキストを使用する財務諸表				備考
			貸借 対照表	損益 計算書	キャッシ ュ・フロ ー計算書	株主資本 等変動 計算書	
1	当期	期末時点	○	(一部)	○	○	
2		期中	-	○	○	○	
(3)		(期首時点)	-	-	-	-	No4 を利用
4	前期	期末時点	○	(一部)	○	○	
5		期中	-	○	○	○	
(6)		(期首時点)	-	-	-	-	No7 を利用
7	前々期	期末時点	-	(一部)	○	○	

表 6-1 有価証券報告書のコンテキスト一覧(連結と個別で別のコンテキスト作成)

No	会計年度	期間・時点	コンテキストを使用する財務諸表				備考
			貸借 対照表	損益 計算書	キャッシ ュ・フロ ー計算書	株主資本 等変動 計算書	
1	当期中間	期末時点	○	(一部)	○	○	
2		期中	-	○	○	○	
(3)		(期首時点)	-	-	-	-	No7 を利用
4	前期中間	期末時点	○	(一部)	○	○	
5		期中	-	○	○	○	
(6)		(期首時点)	-	-	-	-	No10 を利用
7	前期	期末時点	○	(一部)	○	○	
8		期中	-	○	○	○	
(9)		(期首時点)	-	-	-	-	No10 を利用
10	前々期	期末時点	-	(一部)	○	○	

表 6-2 半期報告書のコンテキスト一覧(連結と個別で別のコンテキスト作成)

No	会計年度	期間・時点	コンテキストを使用する財務諸表				備考
			貸借 対照表	損益 計算書	キャッシ ュ・フロ ー計算書	株主資本 等変動 計算書	
1	前期	期末時点	○	(一部)	○	○	
2		期中	-	○	○	○	
(3)		(期首時点)	-	-	-	-	No4 を利用
4	前々期	期末時点	○	(一部)	○	○	
5		期中	-	○	○	○	
(6)		(期首時点)	-	-	-	-	No7 を利用
7	前々々期	期末時点	-	(一部)	○	○	
8	当期中間	期末時点	○	(一部)	○	○	
9		期中	-	○	○	○	
(10)		(期首時点)	-	-	-	-	No1 を利用

注：8～10は、提出のタイミングによって必要となります

表 6-3 有価証券届出書のコンテキスト一覧(連結と個別で別のコンテキスト作成)

注意1：報告書インスタンスでは期首時点のコンテキストを作成しません。

詳細は「6. 4. 1期首日時点のコンテキストの作成」を参照して下さい。

注意2：損益計算書の期末時点のコンテキストは、例えば期首と期末のたな卸高を表す場合に必要です。

表 6-1～表 6-3のように、有価証券報告書では合計 10 種類(連結・個別それぞれ 5 種類)、半期報告書では合計 14 種類(連結・個別それぞれ 7 種類)、有価証券届出書では合計 10 種類(連結・個別それぞれ 5 種類)又は 14 種類(連結・個別それぞれ 7 種類)のコンテキストが必要となります。

なお、インスタンス値から参照されない不要なコンテキストを設定してはなりません。雛形インスタンスには表 6-1～表 6-3に記載のある全てのコンテキストが設定されているため、提出会社が雛形インスタンスを利用する場合、不要なコンテキストを削除する必要があります。雛形インスタンスのコンテキストが不要となり、削除する必要がある例を表 6-4に記載します。

No	事例	削除すべきコンテキスト
1	連結財務諸表を作成しない場合	連結財務諸表に関する全てのコンテキスト ※半期の場合も同様です。
2	連結キャッシュ・フロー計算書を作成する場合(キャッシュ・フロー計算書を作成しない場合)	個別財務諸表に関する前々期末時点のコンテキスト ※半期の場合も同様です。 ※前期の株主資本等変動計算書を作成する場合は削除しません。

表 6-4 不要なコンテキストの事例一覧

6. 2 命名規約

コンテキストのid属性に設定する値(以下、コンテキストID)については、「11. 1コンテキストID」の命名規約に従って付与することを推奨します。命名規約に準拠できない場合、XBRLデータの利用者にとって意味が分かるコンテキストIDを設定して下さい。

6. 3 エンティティ要素の設定

コンテキストのエンティティ(entity)要素は表 6-5に従う必要があります。

No	項目	値
1	スキーム(scheme)	http://www.edinet.go.jp
2	識別子(identifier)	EDINET コード
3	セグメント(segment)	設定なし

表 6-5 コンテキストのエンティティ(entity)要素の設定

6. 4 コンテキストの期間時点(period)要素の設定方法

コンテキストの期間時点(period)要素の子要素の設定は表 6-6に従います。

No	要素名	要素の値
1	期首日(startDate)	報告する会計年度(前期・当期)の期首日 YYYY-MM-DD 形式
2	期末日(endDate)	報告する会計年度(前期・当期)の期末日 YYYY-MM-DD 形式
3	時点(instant)	報告する会計年度(前期・当期)の期末日 YYYY-MM-DD 形式 ※時点(instant)において期首日を表現する場合、前会計年度の期末日で表現します。

表 6-6 期間時点(period)要素の子要素の設定

6. 4. 1 期首日時点のコンテキストの作成

報告書インスタンス上において期首日時点を表すコンテキストを作成してはなりません。期首日時点の残高を報告する際には、前期の期末日時点のコンテキストを用いて報告します。

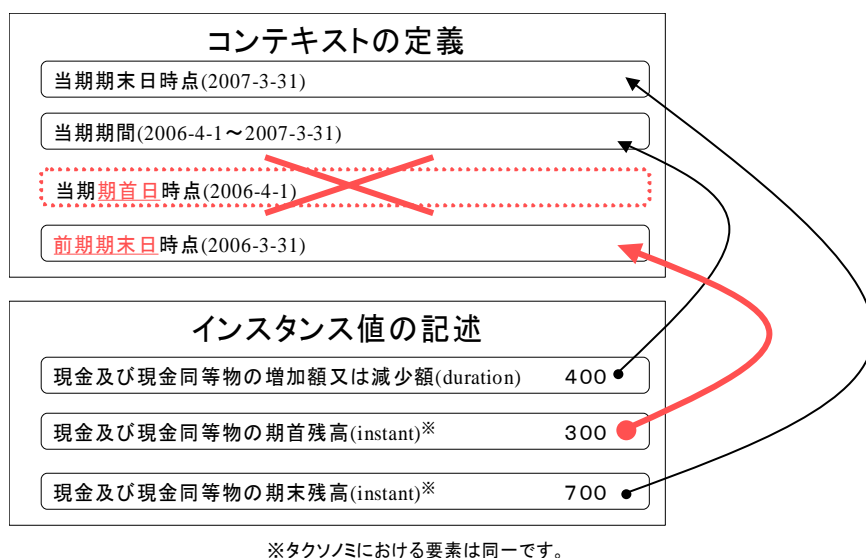


図 6-1 期首日時点のコンテキストの作成

図 6-1のように、当期期首日時点を表すコンテキストは作成しません。前期の期末日時点のコンテキストを作成し、インスタンス値の記述部分から参照して使います。

なお、企業別タクソミにおいても期首を表現する要素(勘定科目)の定義はできません。詳細は「企業別タクソミ作成ガイドライン」を参照して下さい。

6.4.2 決算期を変更した場合の設定

決算期の変更を行った場合、コンテキストに、変更後の決算期の期首日(startDate)、期末日(endDate)、時点(instant)を適切に設定します。

6. 5 シナリオ要素の設定

提出会社は報告する値が個別財務諸表を指す場合、コンテキストのシナリオ要素の値として「他要素スキーマ」の「NonConsolidated(個別財務諸表)」の要素を設定します。また、連結財務諸表を指す場合、コンテキストにシナリオを設定しません。設定項目を表 6-7に示します。

「他要素スキーマ」とは EDINET タクソノミで提供しているスキーマファイルであり、報告項目以外の要素は本スキーマで定義されています。

企業別タクソノミにおいて、個別財務諸表と連結財務諸表の両方で用いられている勘定科目(要素)は、同じ要素で定義しています。従って、報告書インスタンスにおいて報告する値が個別財務諸表のものか連結財務諸表のものはコンテキストで判断されます。

No	様式	設定項目	説明
1	個別財務諸表	<scenario> <jpfr-oe:NonConsolidated/> </scenario>	シナリオ要素に <jpfr-oe:NonConsolidated/>を設定します。
2	連結財務諸表	特になし	シナリオ要素の設定がない場合、 連結と判断します。

表 6-7 シナリオの設定

本書では EDINET タクソノミで提供されている「他要素スキーマ」の名前空間プレフィックスを「jpfr-oe」としています。

7. ユニットの定義

提出会社は提出する財務諸表の勘定科目の金額や構成比・百分比の単位を表すため、ユニットを設定する必要があります。ユニットに設定する値は id 属性（以下、ユニット ID）と measure 要素です。

7.1 ユニットの設定

ユニットは勘定科目の金額や、その構成比・百分比の単位を表します。勘定科目の金額は日本円で表現されますので、日本円を表す” JPY” をユニット ID に設定し、同様に日本円を表す” iso4217:JPY” を measure 要素に設定します。また、構成比・百分比は比率で表現されますので、比率を表す” pure” をユニット ID に設定し、同様に比率を表す” xbrli:pure” を measure 要素に設定します。

なお、インスタンス値から参照されないユニットは報告書インスタンスに存在してはなりません。構成比・百分比がない財務諸表を提出する場合、その報告書インスタンスに構成比・百分比の単位を表すユニットが設定されてはなりません。

設定例や推奨されるユニットIDは「11. 3ユニットID」を参照して下さい。

8. インスタンス値の記述

8.1 金額の入力

8.1.1 数値の精度

報告書インスタンスには円単位でデータを記載しなければなりません。例えば、「流動資産 4,543(千円)」という千円単位の金額をインスタンス上の値として記載するには0を補完し、「4543000」と円単位で表記します。インスタンス値の例を図 8-1に示します。

【誤】	<CurrentAssets . . . (中略) . . . decimals="-3">4543</CurrentAssets>
【正】	<CurrentAssets . . . (中略) . . . decimals="-3">4543000</CurrentAssets>

図 8-1 インスタンス値の例

また、表示単位に満たない数値(千円単位であれば下 3 桁)の場合、たとえ正確な金額だとしても 0 以外の数字を入れることはできません。これは円単位からの表示単位の変換において表示単位に満たない金額が 0 以外の数値であった場合、金額の端数処理が発生してしまい、端数処理の解釈の余地が発生してしまうからです。例えば、表示単位が千円で千円未満の数字を正確に入れた場合、その数字を千円単位で表示するときに、切り捨て、切り上げ、四捨五入などの複数の解釈ができます。

提出会社は財務諸表等規則等や業法等で定められた金額の精度(千円単位、百万円単位等)を表現するために表 8-1に従ってdecimals属性を利用します。金額の表示単位と金額の精度は一致しなければなりません。

No	単位	decimals 属性
1	円	0
2	千円	-3
3	百万円	-6

表 8-1 表示単位と decimals 属性の対応

8.1.2 キャッシュ・フロー計算書の勘定科目の設定方法

キャッシュ・フロー計算書において特有の要素(勘定科目)については貸借(balance)属性が設定なしであり、要素の値の正負はキャッシュ・フロー計算書上のキャッシュに対してプラスの影響があるのか、マイナスの影響があるのかで判断されます。

キャッシュに対してプラスの影響があるものについては正の値で記載し、キャッシュに

対してマイナスの項目については負の値で記載しなければなりません。

8.1.3 株主資本等変動計算書の金額の設定

企業別タクソノミでは、株主資本等変動計算書を表す要素は、貸借対照表の純資産の要素を除くもの以外は、貸借区分(balance属性)の設定がありません。詳細は「企業別タクソノミ作成ガイドライン」を参照して下さい。

報告書インスタンスに設定する値は、増加の場合はプラス、減少の場合はマイナスで記載します。

8.1.4 「該当なし」の設定

財務諸表内の勘定科目に対して該当なしの状態、「-(バー)」を表現するには報告書インスタンスでは当該要素のnil属性にtrueを設定します。

8.2 構成比・百分比の入力

8.2.1 値の入力方法

財務諸表に記載する特定の勘定科目に対しての構成比・百分比の値は百分率ではなく、比率で記載します。また、decimals属性には構成比・百分比の小数点以下の桁数を設定します。

<p>【誤】 <CurrentAssetsRatio decimals="1">30.5</CurrentAssetsRatio> 【正】 <CurrentAssetsRatio decimals="3">0.305</CurrentAssetsRatio></p>

図 8-2 流動資産の構成比が 30.5%の場合の例

図 8-2の例では 0.305 という値の桁数に合わせ、decimals属性値に「3」と設定します。

8.3 参照するコンテキストの設定

入力した値が参照するコンテキストを設定します。コンテキストの参照はcontextRef属性を用います。参照するコンテキストの設定の例を図 8-3に示します。

```
(コンテキストの定義)
<xbrli:context id="CurrentYearNonConsolidatedInstant">
. . .
</xbrli:context>
. . .
(インスタンス値の記述)
<Buildings contextRef="CurrentYearNonConsolidatedInstant">400000</Buildings>
```

図 8-3 参照するコンテキストの設定の例

8.4 参照するユニットの設定

入力した値が参照するユニットを設定します。ユニットの参照はunitRef属性を用います。参照するユニットの設定の例を図 8-4に示します。

```
(金額のユニットの定義)
<xbrli:unit id="JPY">
. . .
</xbrli:unit>
(構成比・百分比のユニットの定義)
<xbrli:unit id="pure">
. . .
</xbrli:unit>
. . .
(インスタンス値の記述)
<Buildings unitRef="JPY">400000</Buildings>
<BuildingsCompositionRatio unitRef="pure">0.010</BuildingsCompositionRatio>
```

図 8-4 参照するユニットの設定の例

8.5 その他の留意事項

8.5.1 同一要素へのコンテキストの設定

報告書インスタンスにおいて同一の要素に同一のコンテキストとユニットは設定できません。例えば、図 8-5のように「建物 400,000」という勘定科目の金額を2つに分けて報告することは認められません。

```
<Buildings unitRef="JPY" contextRef="CurrentYearNonConsolidatedInstant">100000</Buildings>  
<Buildings unitRef="JPY" contextRef="CurrentYearNonConsolidatedInstant">300000</Buildings>
```

図 8-5 認められないインスタンス値の例

9. 注記番号の記載

報告書インスタンス中で注記番号を表現する場合、フットノートリンクを利用して表現します。フットノートリンクで設定する内容は表 9-1の通りです。

No	項目	内容	説明
1	設定の対象	注記番号が必要な個々の値	当期だけではなく、前期の値についても注記番号の設定を忘れないよう、注意が必要です。
2	利用するフットノートリンクの拡張リンクロール	表示リンクの拡張リンクロールと同じ拡張リンクロール	注記番号を付与する諸表を表現します。拡張リンクロールの一覧は「企業別タクソノミ作成ガイドライン」の添付「拡張リンクロール一覧」を参照して下さい。
3	利用するフットノートリンクのリソースロール	表 9-2	注記番号用のフットノートリンクであることを示します。
4	lang 属性	言語	言語を設定します。注記番号の言語は日本語を表す” ja” を設定します。
5	order 属性	注記番号の順序	注記番号の順序を数値で設定します。同一の値に複数の注記番号をつける場合、それぞれ異なる order 属性値を設定する必要があります。
6	値	注記事項に記載するものと同じ注記番号	注記事項の内容はここには記載しません。注記番号が複数の場合、それぞれ別のフットノートを設定します。

表 9-1 フットノートリンクの設定

No	リソースロール	説明
1	NotesNumber	通常の注記番号の場合に設定します。
2	NotesNumberPeriodStart	期首のみの注記番号の場合に設定します。
3	NotesNumberPeriodEnd	期末のみの注記番号の場合に設定します。

リソースロールは <http://www.edinet.go.jp/jp/fr/gaap/role/> を省略

表 9-2 フットノートリンクで使用するリソースロール一覧

図 9-1及び図 9-2は、建物と構築物に注記番号をつける場合のフットノートリンクの設定イメージとサンプルです。

		前事業年度 (平成17年3月31日)	当事業年度 (平成18年3月31日)
有形固定資産			
建物	※2, 7	100	120
減価償却累計額	
構築物	※7	50	70
減価償却累計額	

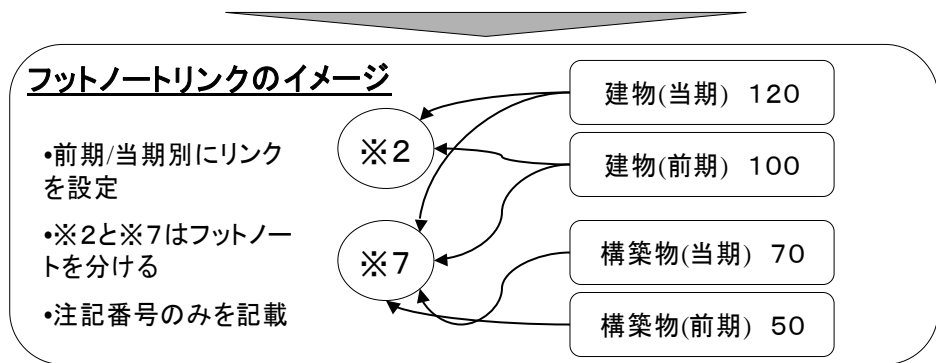


図 9-1 フットノートリンクの設定イメージ

(インスタンス値)

```
<Buildings id="f1" contextRef="CurrentYearNonConsolidatedInstant">120000</Buildings>
```

```
<Buildings id="f2" contextRef="Prior1NonConsolidatedInstant">100000</Buildings>
```

```
<Structures id="f3" contextRef="CurrentYearNonConsolidatedInstant">70000</Structures>
```

```
<Structures id="f4" contextRef="Prior1NonConsolidatedInstant">50000</Structures>
```

(フットノートリンク)

```
<link:footnoteLink                                xlink:role="http://www.edinet.go.jp/jp/fr/gaap/role/ConsolidatedBalanceSheets"
```

```
xlink:type="extended">
```

```
  <link:loc xlink:href="#f1" xlink:label="Buildings_f1" xlink:type="locator"/>
```

```
  <link:footnote                                xlink:label="footnote_1"
```

```
xlink:role="http://www.edinet.go.jp/jp/fr/gaap/role/NotesNumber"
```

```
xlink:type="resource" xml:lang="ja">※2</link:footnote>
```

```
  <link:footnoteArc order="1.0" xlink:arcrole="http://www.xbrl.org/2003/arcrole/fact-footnote"
```

```
xlink:from="Buildings_f1" xlink:to="footnote_1" xlink:type="arc"/>
```

```
  <link:footnote                                xlink:label="footnote_2"
```

```
xlink:role="http://www.edinet.go.jp/jp/fr/gaap/role/NotesNumber"
```

```
xlink:type="resource" xml:lang="ja">※7</link:footnote>
```

```
  <link:footnoteArc order="2.0" xlink:arcrole="http://www.xbrl.org/2003/arcrole/fact-footnote"
```

```
xlink:from="Buildings_f1" xlink:to="footnote_2" xlink:type="arc"/>
```

```
  <link:loc xlink:href="#f2" xlink:label="Buildings_f2" xlink:type="locator"/>
```

```
  <link:footnoteArc order="1.0" xlink:arcrole="http://www.xbrl.org/2003/arcrole/fact-footnote"
```

```
xlink:from="Buildings_f2" xlink:to="footnote_1" xlink:type="arc"/>
```

```
  <link:footnoteArc order="2.0" xlink:arcrole="http://www.xbrl.org/2003/arcrole/fact-footnote"
```

```
xlink:from="Buildings_f2" xlink:to="footnote_2" xlink:type="arc"/>
```

```
  <link:loc xlink:href="#f3" xlink:label="Structures_f3" xlink:type="locator"/>
```

```
  <link:footnoteArc order="1.0" xlink:arcrole="http://www.xbrl.org/2003/arcrole/fact-footnote"
```

```
xlink:from="Structures_f3" xlink:to="footnote_2" xlink:type="arc"/>
```

```
  <link:loc xlink:href="#f4" xlink:label="Structures_f4" xlink:type="locator"/>
```

```
  <link:footnoteArc order="1.0" xlink:arcrole="http://www.xbrl.org/2003/arcrole/fact-footnote"
```

```
xlink:from="Structures_f4" xlink:to="footnote_2" xlink:type="arc"/>
```

```
</link:footnoteLink>
```

図 9-2 注記のサンプル

10. その他

10.1 訂正時の取り扱いについて

XBRL形式で提出する財務諸表に関する訂正報告は、訂正報告書とともに、XBRL形式で提出する書類を構成するファイル一式(企業別タクソノミ、報告書インスタンス)の再提出によって行います。報告書インスタンスのみを修正し企業別タクソノミに変更がない場合や、企業別タクソノミのみ(例えばラベルのみ)を修正し報告書インスタンスに変更がない場合でも、全てのファイルを再提出する必要があります。ファイルを再提出するので、ファイル命名規約に従い、全てのファイルの{提出回数}をインクリメント(1ずつ増加)します。つまり、全てのファイルの{提出回数}が一致していることに注意して下さい。なお、ファイルの命名規約については、「企業別タクソノミ作成ガイドライン」、本書の「3. 3報告書インスタンスのファイル名」を参照して下さい。

本書で特に断りがない限り、報告書インスタンス作成において、初回提出か訂正かで作成方法が変わることはありません。

10.2 株主資本等変動計算書

「企業別タクソノミ作成ガイドライン」の通り、株主資本等変動計算書の項目のうち「当期末残高」と「前期末残高」は、貸借対照表で定義した純資産の部の要素と同一です。

従って、貸借対照表の拡張リンクロールを用いて純資産の部の要素に金額とコンテキスト、ユニットを入力後、株主資本等変動計算書の拡張リンクロールを用いて株主資本等変動計算書を表示すると、「当期末残高」と「前期末残高」が入力済みとなっていることが分かります。

反対に、株主資本等変動計算書の拡張リンクロールを用いて表示した株主資本等変動計算書の「当期末残高」と「前期末残高」に対して値を変更すると、貸借対照表の純資産の部に反映されず。

これは、貸借対照表の純資産の部と、株主資本等変動計算書の「当期末残高」と「前期末残高」の値は完全一致しなければいけないことを示しています。

10.3 検証に関する注意事項

インスタンスに対して計算リンクの検証を実施すると、計算リンクのサブツリー毎に、コンテキストとユニットの組み合わせで設定された値の加算関係のチェックが行われます。ところで、「企業別タクソノミ作成ガイドライン」で解説した通り、計算リンクには複数

の拡張リンクロールが存在します。財務諸表の 2 期比較をサポートするため財務諸表等規則等上の変更前と変更後の様式や構成比・百分比に関する拡張リンクロールや、連結と個別に関する拡張リンクロールがあるため、1つの要素に対して、拡張リンクロールで区別される複数の計算リンクが存在します。

拡張リンクロールとコンテキストの組み合わせが意図したものと一致していない組み合わせの場合、正しい検証が行われないため計算リンクの検証エラーとなりますが、これは検証対象外であることに注意して下さい。

拡張リンクロールとコンテキストの組み合わせが意図したものであるにもかかわらず計算リンクの検証エラーがある場合、設定した数値の見直しやコンテキストの設定見直しなどを行って下さい。

例えば、図 10-1では、連結用の拡張リンクロールと連結用コンテキストの組み合わせは意図したものであるため検証対象ですが、個別用拡張リンクロールと連結用コンテキストの組み合わせは意図したものではないため検証対象外です。

科目	連結用 拡張リンク ロール	個別用 拡張リンク ロール	連結用 拡張リンク ロール	個別用 拡張リンク ロール
	連結用 コンテキスト		個別用 コンテキスト	
現金及び預金	← 567 →		← 123 →	
受取手形及び売掛金	← 1,234 →		(該当なし)	
有価証券	← 789 →		← 456 →	
たな卸資産	← 3,456 →		← 789 →	
...	← 12 →		(該当なし)	
...				
受取手形	(該当なし)		12 →	
売掛金	(該当なし)		34 →	
...	(該当なし)		56 →	
...				
流動資産合計	6,058	X	X	1,470

検証対象

検証対象外
拡張リンクロールとコンテキストは意図した組み合わせのみを検証する

検証対象

図 10-1 拡張リンクロールとコンテキストの組み合わせについて

11. 各種命名規約

11.1 コンテキスト ID

推奨されるコンテキストIDの命名規約は表 11-1の通りです。但し、コンテキストIDからコンテキストの意味をXBRLデータの利用者が理解できれば、必ずしもこの規約に従う必要はありません。

コンテキスト ID : {相対年度} {連結・個別} {期間・時点}

No	項目	設定値	説明
1	{相対年度}	CurrentYear	当年度を意味します。
2		Interim	中間期を意味します。
3		Prior1Year	前年度を意味します。
4		Prior1Interim	前中間期を意味します。
5		Prior2Year	前々年度を意味します。
6		Prior {数値} Year	{数値} 年度前を意味します。
7	{連結・個別}	Consolidated	連結の報告を意味します。
8		NonConsolidated	個別の報告を意味します。
9	{期間・時点}	Instant	時点を意味します。
10		Duration	期間を意味します。

表 11-1 コンテキスト ID の設定値

11. 2 コンテキストの設定例

① 当期連結時点

コンテキスト ID		CurrentYearConsolidatedInstant
entity	scheme	http://www.edinet.go.jp
	identifier	EDINET コード
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario		設定なし
説明		報告対象となる会計年度の期末日時点の連結の財務情報を報告するために利用します。

② 当期連結期間

コンテキスト ID		CurrentYearConsolidatedDuration
entity	scheme	http://www.edinet.go.jp
	identifier	EDINET コード
	segment	設定なし
period	startDate	期首日 (YYYY-MM-DD 形式)
	endDate	期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
	instant	設定なし
scenario		設定なし
説明		報告対象となる会計年度の期間の連結の財務情報を報告するために利用します。

③ 当期個別時点

コンテキスト ID		CurrentYearNonConsolidatedInstant
entity	scheme	http://www.edinet.go.jp
	identifier	EDINET コード
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario		<jpfr-oe:NonConsolidated/>
説明		報告対象となる会計年度の期末日時点の個別の財務情報を報告するために利用します。

④ 当期個別期間

コンテキスト ID		CurrentYearNonConsolidatedDuration
entity	scheme	http://www.edinet.go.jp
	identifier	EDINET コード
	segment	設定なし
period	startDate	期首日 (YYYY-MM-DD 形式)
	endDate	期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
	instant	設定なし
scenario		<jpfr-oe:NonConsolidated/>
説明		報告対象となる会計年度の期間の個別の財務情報を報告するために利用します。

⑤ 前期連結時点

コンテキスト ID		Prior1YearConsolidatedInstant
entity	scheme	http://www.edinet.go.jp
	identifier	EDINET コード
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	前年度期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario		設定なし
説明		報告対象となる会計年度の前期の期末日時点(又は当期の期首日時点)の連結の財務情報を報告するために利用します。

⑥ 前期連結期間

コンテキスト ID		Prior1YearConsolidatedDuration
entity	scheme	http://www.edinet.go.jp
	identifier	EDINET コード
	segment	設定なし
period	startDate	前年度期首日 (YYYY-MM-DD 形式)
	endDate	前年度期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
	instant	設定なし
scenario		設定なし
説明		報告対象となる会計年度の前期の期間の連結の財務情報を報告するために利用します。

⑦ 前期個別時点

コンテキスト ID		Prior1YearNonConsolidatedInstant
entity	scheme	http://www.edinet.go.jp
	identifier	EDINET コード
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	前年度期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario		<jpfr-oe:NonConsolidated/>
説明		報告対象となる会計年度の前期の期末日時点(又は当期の期首日時点)の個別の財務情報を報告するために利用します。

⑧ 前期個別期間

コンテキスト ID		Prior1YearNonConsolidatedDuration
entity	scheme	http://www.edinet.go.jp
	identifier	EDINET コード
	segment	設定なし
period	startDate	前年度期首日 (YYYY-MM-DD 形式)
	endDate	前年度期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
	instant	設定なし
scenario		<jpfr-oe:NonConsolidated/>
説明		報告対象となる会計年度の前期の期間の個別の財務情報を報告するために利用します。

⑨ 当中間期連結時点

コンテキスト ID		InterimConsolidatedInstant
entity	scheme	http://www.edinet.go.jp
	identifier	EDINET コード
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	当中間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario		設定なし
説明		報告対象となる中間会計年度の期末日時点の連結の財務情報を報告するために利用します。

⑩ 当中間期連結期間

コンテキスト ID		InterimConsolidatedDuration
entity	scheme	http://www.edinet.go.jp
	identifier	EDINET コード
	segment	設定なし
period	startDate	当中間期首日 (YYYY-MM-DD 形式)
	endDate	当中間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
	instant	設定なし
scenario		設定なし
説明		報告対象となる中間会計年度の期間の連結の財務情報を報告するために利用します。

⑪ 当中間期個別時点

コンテキスト ID		InterimNonConsolidatedInstant
entity	scheme	http://www.edinet.go.jp
	identifier	EDINET コード
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	当中間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario		<jpfr-oe:NonConsolidated/>
説明		報告対象となる中間会計年度の期末日時点の個別の財務情報を報告するために利用します。

⑫ 当中間期個別期間

コンテキスト ID		InterimNonConsolidatedDuration
entity	scheme	http://www.edinet.go.jp
	identifier	EDINET コード
	segment	設定なし
period	startDate	当中間期首日 (YYYY-MM-DD 形式)
	endDate	当中間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
	instant	設定なし
scenario		<jpfr-oe:NonConsolidated/>
説明		報告対象となる中間会計年度の期間の個別の財務情報を報告するために利用します。

⑬ 前中間期連結時点

コンテキスト ID		Prior1InterimConsolidatedInstant
entity	scheme	http://www.edinet.go.jp
	identifier	EDINET コード
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	前中間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario		設定なし
説明		報告対象となる中間会計年度の前期の期末日時点の連結の財務情報を報告するために利用します。

⑭ 前中間期連結期間

コンテキスト ID		Prior1InterimConsolidatedDuration
entity	scheme	http://www.edinet.go.jp
	identifier	EDINET コード
	segment	設定なし
period	startDate	前中間期首日 (YYYY-MM-DD 形式)
	endDate	前中間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
	instant	設定なし
scenario		設定なし
説明		報告対象となる中間会計年度の前期の期間の連結の財務情報を報告するために利用します。

⑮ 前中間期個別時点

コンテキスト ID		Prior1InterimNonConsolidatedInstant
entity	scheme	http://www.edinet.go.jp
	identifier	EDINET コード
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	前中間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario		<jpfr-oe:NonConsolidated/>
説明		報告対象となる中間会計年度の前期の期末日時点の個別の財務情報を報告するために利用します。

⑯ 前中間期個別期間

コンテキスト ID		Prior1InterimNonConsolidatedDuration
entity	scheme	http://www.edinet.go.jp
	identifier	EDINET コード
	segment	設定なし
period	startDate	前中間期首日 (YYYY-MM-DD 形式)
	endDate	前中間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
	instant	設定なし
scenario		<jpfr-oe:NonConsolidated/>
説明		報告対象となる中間会計年度の前期の期間の個別の財務情報を報告するために利用します。

⑰ 前期期首連結時点

コンテキスト ID		Prior2YearConsolidatedInstant
entity	scheme	http://www.edinet.go.jp
	identifier	EDINET コード
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	前々年度期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario		設定なし
説明		報告対象となる前年度もしくは前中間期の期首日時点での連結の財務情報を報告するために利用します。

⑱ 前期期首個別時点

コンテキスト ID		Prior2YearNonConsolidatedInstant
entity	scheme	http://www.edinet.go.jp
	identifier	EDINET コード
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	前々年度期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario		<jpfr-oe:NonConsolidated/>
説明		報告対象となる前年度もしくは前中間期の期首日時点での個別の財務情報を報告するために利用します。

11.3 ユニット ID

ユニットIDの命名規約は表 11-2表 11-3の通りです。但し、ユニットIDからユニットの意味をXBRLデータの利用者が理解できれば、必ずしもこの規約に従う必要はありません。

ユニット ID	JPY
measure	iso4217:JPY
説明	金額の単位として使用

※iso4217 の名前空間 URI は、“<http://www.xbrl.org/2003/iso4217>” です。

表 11-2 日本円のユニット

ユニット ID	pure
measure	xbrli:pure
説明	特定の勘定科目の構成比・百分比を表す単位として使用

表 11-3 構成比・百分比のユニット